

善意銀行（寄付の窓口）～あなたの善意をお預かりします～

区民の皆様から善意の寄付（金銭や物品）をお預かりし、地域の福祉施設やボランティア団体（子ども食堂、地域サロン）などに配分し、地域の福祉活動を支援しています。ご寄付は、ぜひ本会までご連絡ください。

寄付者一覧（順不同・敬称略、1/1～6/30）ご寄付ありがとうございました。

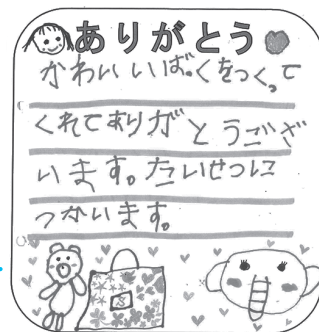
日立戸塚、横浜東戸塚ライオンズクラブ、神奈川土建横浜戸塚支部、六国建設株式会社、山口清美、加藤久美子、端山恵治、金原紀夫、戸塚ルーテル教会附属幼稚園、とつかルーテル保育園有志、戸塚第三地区更生保護女性会、匿名



寄付者への ありがとうメッセージ

お米の寄付を受け取った
保育施設のお子さんより

入園入学用の手提げバッグ
の寄付を受け取った施設の
お子さんより



賛助会員

本会では「誰もが安心して心豊かに暮らすことのできる地域社会の実現」を目指し、地域福祉の推進事業を行っています。地域に根ざした活動を進めていくため、本会の賛助会員としてご支援・ご協力をお願いいたします。申し込みは、ぜひ本会までご連絡ください。

賛助会員のご紹介（順不同・敬称略）本会へのご支援ご協力ありがとうございます。

沖野建設株式会社、株式会社ショウワ、株式会社シーケン、英語勉強サークル横浜、社会福祉法人豊会柏尾スマイル保育園

連載

福祉人材シリーズ 戸塚の輝くひと vol.17

一大正地区の特徴を教えてください

戸塚区の南西部に位置し、人口規模、面積共に戸塚区最大の地区（人口約41,000人、世帯約19,000世帯、面積約8.2km²）で、24の自治会町内会で構成されています。地区内は豊かな自然に恵まれており、国道一号線や環状4号線が東西南北に伸びています。大規模な公の施設や、高齢者施設、病院といった医療・福祉施設が充実しています。

一大正地区の活動について教えてください

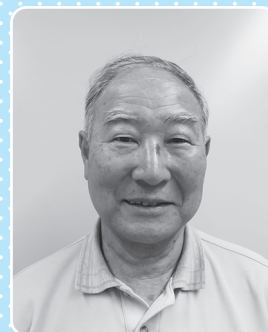
最大のイベントである「大正地区レクリエーション大会」・「大正フェスタ」が、コロナ感染拡大の影響で中止に追い込まれ、「絆」づくりの基礎部分が「ゆらいで」います。逆境の中、ホームページを令和3年1月1日に開設、広報誌の発行も行うようになりました。第4期ハートプランのキーワードは「誰もが主役」との意識を持てるような地域づくりだと思います。「言うは易く行うは難し」。徹底した情報公開と「出前講座」など、開催の仕方を工夫して理解を深められるように取り組みます。そして、「少子超高齢化社会」に対応した地域・組織のひな型作りに励み、次の世代に円満にバトンタッチ！です。

これから地区社協活動についてどのように考えていますか

人口減少社会、担い手不足で衰退に！人を引き付ける魅力ある地域づくりを怠れば、空き家ばかりの限界地域に。電車なくともバスはある。医療・高齢者・学校施設、豊かな自然をフル活用、「みんなで安全・安心なまちづくり」で、不安を吹き飛ばしましょう。

ひとこと

何をするのも貴方が主役、人材は無限と信ずる。門戸を全開、明るい未来は貴方が担う、一人一役、まっしぐらで行きましょう。



大正地区社会福祉協議会
会長 萩谷 邦昭さん

「社協とつか」は区民の方々から寄せられた共同募金の一部を用いて発行しています。



2022年8月号(第81号)

発行／企画 社協・編集会議

社会福祉法人 横浜市戸塚区社会福祉協議会
住所：〒244-0003 戸塚区戸塚町 167-25
戸塚区福祉保健活動拠点フレンズ戸塚
TEL: 045-866-8434
FAX: 045-862-5890
E-mail: info@totsukashakyo.com
https://totsukashakyo.com/



社協の事業紹介・お知らせ

福祉のしごとフェア

参加費 無料
福祉人材の確保と、福祉の仕事を身近に感じてもらうために、栄区社会福祉協議会と共催で、福祉のしごとフェアを実施しています。今年度は、戸塚区役所多目的スペースで、対面での実施を予定しています。当日は、福祉施設の職員と直接話をするができます。どんな仕事なのか、どんな施設なのか、どんなスタッフが働いているのか…、様々な疑問を解決する機会になると思います。少しでも福祉の仕事に興味があれば、ぜひご参加ください。

日時 令和4年9月16日(金)
10:30～15:00
会場 戸塚区役所 3階
多目的スペース
内容 福祉施設の紹介、
就職相談等



以前のしごとフェアの様子

社会福祉大会

本会では今年度より、地域福祉の増進のためボランティア活動を継続している個人や団体、または本会善意銀行に一定以上の寄付をいただいた個人や団体へ感謝の意を表するため、戸塚区社会福祉大会を開催して表彰を行います。なお、戸塚区社会福祉大会は令和4年11月に開催予定です。

赤い羽根共同募金

共同募金は、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、さまざまな地域福祉の課題解決に取り組む民間団体を応援する、「じぶんの町を良くするしくみ。」として、実施しています。

令和3年度共同募金寄付金総額 21,734,600円

多くの皆様からの温かいご支援に心より感謝いたします。

赤い羽根募金のつかいみち

配分総額 18,269,170円

戸塚区内の社会福祉施設・団体	3,880,000円
神奈川県福祉施設・団体	6,475,238円
戸塚区社会福祉協議会の事業費	7,913,932円
・地区社会福祉協議会への支援	2,399,000円
・戸塚区社協ふれあい助成金	2,242,800円
・区社協広報紙「社協とつか」の発行等	678,040円
・障害児・者関係事業	100,675円
・その他(連絡会活動費、小災害見舞金等)	1,943,417円
・地域福祉団体助成	550,000円

年末たすけあい募金のつかいみち

配分総額 3,465,430円

戸塚区社会福祉協議会の事業費	3,465,430円
・地区社会福祉協議会への支援	1,386,890円
・戸塚区社協フレンズ助成金	400,000円
・地域福祉推進事業等	1,678,540円

また令和4年度も10月から共同募金運動が始まります。
皆様のご協力をお待ちしております。



令和3年度 戸塚区社会福祉協議会事業 決算報告

令和2年度に引き続き、コロナ禍で経済的な影響を受けた方に対する特例貸付が行われ、これに対応するための受託金が増額しました。また、地域で福祉活動を行う団体やグループへ配分した助成金も活動の縮小や中止により返還金が増えました。さらに、本会の行う送迎サービス等の事業の中止や善意銀行への寄付にも影響を受け、事業収入や寄附金は減少しました。また、第4期とつかハートプラン（戸塚区地域福祉保健計画）が令和3年9月に完成しました。区内18地区ごとに作成した地区別計画のリーフレットを区内全世帯へ配布するため、印刷経費を事業費支出として計上しました。

収入の内訳	令和2年度決算額	令和3年度決算額
受託金	41,785,908	43,162,735
会費	5,249,920	5,390,860
補助金	9,720,160	9,881,655
共同募金配分金	10,651,948	11,455,801
事業収入	497,340	382,020
寄附金	1,680,208	826,569
その他の収入	1,493,680	3,335,645
合計	71,079,164	74,435,285

※事業活動による収支を抜粋して掲載。

(単位:円)

支出の内訳	令和2年度決算額	令和3年度決算額
助成金	19,843,000	18,108,890
人件費	21,850,791	21,594,141
事業費	18,930,268	22,719,730
事務費	3,471,993	3,147,224
その他の支出	1,865,452	2,343,297
合計	65,961,504	67,913,282

(単位:円)

子育て支援活動

戸塚第二地区社会福祉協議会 にこにこキッズ



公園での砂遊びの様子



体操を行っている様子

開催 月1回程度
活動場所 矢沢町内会館
参加費 50円（保険料）
主な対象者 戸塚第二地区にお住いの未就学児と親

にこにこキッズは、主任児童委員制度が始まった頃、地区社協※2活動の一環として活動を始めました。主任児童委員と民生委員児童委員が協力し、会の運営をしています。コロナ前はパネルシアターや紙芝居等のイベントを毎月行っていたが、今現在は密を避けることから外遊びを中心とした活動に切り替えて継続しています。

「アットホームな雰囲気の中で温かく子育てを応援したい」という想いのもと、会の中では、参加した親子には毎回シールを渡し、継続的な参加で達成感を感じてもらったり、簡単な工作を皆で外遊びの前に行ったり、親子で楽しめるちょっとした工夫がたくさん詰め込まれています。また、公園遊びの中では、主任児童委員や民生委員児童委員が自然と親同士で仲良くなれるような話題を提供したり、体操や歌を教えたり、親子の地域での繋がりがつくりもサポートされていました。

今後も感染予防をしながら、できるだけ親子の居場所を提供し続けていく予定です。

このような子育てサロンは戸塚区内の各地域でも行っています。参加することで、子育てのヒントや繋がりができるかもしれません。子育て中の皆さんには是非参加をおすすめしたいです。



当日は、1歳から2歳児の女の子と男の子3名の参加がありました。玩具をもって公園に公園では1歳児は地面に座って1人遊び、2歳児は階段を上ったり下ったりと思いの遊びを見つけて楽しんでいました。

住民主体のまちづくり 第9弾

本会では、子どもから大人まであらゆる世代・年代の方が安心して自分らしく暮らせる地域づくりを応援しています。今号では、地域の皆さんの「笑顔」のため活動を行う、4団体の取り組みを紹介します。

高齢者・障害者支援活動

公益社団法人 北汲沢地域総合福祉活動委員会



庭木の剪定を行っている様子



お話を伺った
宮澤理事長・加藤事務局長



北汲沢地区の方がボランティア活動に積極的に参加されているのに感銘を受けました。



この事業にかかわった方々の力を感じました。また、自分たちが住む地域を少しでも住みやすい所にしようと、ぶれない目標を持って続けてきたということに感動しました。

北汲沢地域総合福祉活動委員会（以下、委員会）は、これまで北汲沢地域の地区連合※1・地区社協※2・地区民児協※3等が独立した形で行っていた活動を、横断的につないで情報を一元化することで、住民に対して一体的に有益な情報を提供できるという考えから、委員会を2009年1月に立ち上げました。

委員会では全戸アンケートを実施し、外出支援と日常家事支援に関するニーズがあることを把握しました。これらのニーズに対応するため有償ボランティア事業として、2011年3月に一般社団法人の認定を受けました。また、外出支援活動は陸運局に申請して、2011年8月に福祉有償運送事業の認可を得ました。こうして委員会の各事業がスタートしました。

更に公益社団法人の申請をすることになり、神奈川県に申請しました。しかし認定取得は難しく根気強く掛け合い、2013年5月1日に認定されました。

公益社団法人として今年で10年目を迎え、住民への認知度も上がり、外出支援は昨年1,900人超のご利用がありました。また、日常家事支援もコロナ禍で若干の件数減少はありましたが、定期的に受付を行っています。

「今後も担い手を増やし、息の長い活動にしていきたい」と今後の活動への意欲を伺うこともできました。

活動日 依頼があれば随時 **活動場所** 北汲沢地区 **利用料** 戸塚区社協へお問合せください
主な対象者 北汲沢地区の高齢者、障害をお持ちの方

戸塚区保育協力者グループ きらきらの会



手遊び歌の様子



人形劇の様子

開催 月1回程度 **活動場所** 横浜市上倉田地域ケアプラザ
参加費 なし **主な対象者** 就学前のお子様とその家族



ボランティアの方の「ここはお母さんの応援の場所であり、『いいよ、いいよ』で関わりたい。お母さんが育てば子どもも育つ」という言葉は、同じく子育てサロンを開催する者として、改めて心にしみる言葉でした。

きらきらの会は、戸塚区役所が開催したボランティア講座受講修了者の有志で設立されました。現在は、乳幼児健診のお手伝い、講座、講演会などの保育、親子ひろばの開催と活動の幅を広げています。

「子育てをしているお母さんたちを応援したい」「楽しく、ゆっくと子育てしてほしい」という想いをもちながら、活動に関わっていらっしゃる皆さん。活動の際には、受容や共感を大切にしているとのことでした。お母さんたちが安心できる場所を目指し、ボランティアの皆さんは研修を受けて日々研鑽しています。

今後は、これまでの取組みを続けつつ、子育てそのものの変化に合わせた講座等も開催していきたいと考えているそうです。

また、一緒に活動してくださる会員の方も募集しています。

最後に、会の活動は来年30周年を迎えるとのことでした。その歩みの中で時代背景や環境、社会的な要素で親子を取巻く状況も変化し、子育て自体も変化してきているように感じました。その時々のお母さんの不安や心配事にそっと寄り添いつつ、応援する活動が戸塚区内にあることをもっと多くの皆さんに知って頂けたら嬉しいです。



「会の発足は専業主婦だった会員自らの社会進出でもあった」とのお話や「子どもの誕生は同時に親の誕生でもある。子育ての先輩として、今のママを応援したい。大丈夫!と安心させてい」という言葉が温かかったです。

舞岡地区社会福祉協議会 かすみ草の会



会のお便り



催し物(三味線)の様子

開催 年6回
活動場所 舞岡地区センター
参加費 300円（お弁当代一部負担）



コロナ禍の工夫として、密を避けるために3つのエリアに分けての開催をしたとのこと。良い考えですね。かすみ草便りでは、お便りの返事を受けて、また良いお話があればお便りに掲載するという取り組みをされており、新しい輪の広がりに繋がる良い取り組みだと感じました。当日の素晴らしい日舞、三味線にうっとりしました!

かすみ草の会は平成2年「人と話す機会がほしい」という声から一人暮らし高齢者を対象に保健師による血圧測定と健康相談、簡単な食事を提供するところからスタートしました。また、参加者が増え担い手として民生委員児童委員だけでなく、ボランティアの会の方にもお食事作りに携わっていただくようになりました。コロナ禍では再開できていませんが、ボランティアの方が作る心のこもったお食事は参加者にとっても喜ばれています。

コロナ禍で実施が難しかった昨年は、脳トレなどのお便りを返信用の封筒を同封してお送りし、やり取りすることで繋がりを続ける工夫を行いました。

「機会がないと高齢の方はなかなか外出することがないため、少しでも楽しんでもらいたい」「こうして集う場があることで、1人ではなく地域の中に繋がりがあるということをお伝えしたい」という熱い想いで、久しぶりの開催が実現されました。人数制限、時間短縮、催し物を考え、お弁当を外注して持って帰っていただく等、内容についても工夫して実施されていました。

今後もこのお便りは継続しつつ、できることから段階的に進めていきたいとのことでした。

再開をするにあたって、従来とは異なる形や工夫を検討しなければならない場面が多く、日々悩まれながらの活動になると思います。コロナ禍だからこそ繋がりを絶やさないことが必要であり、それが地域の方の笑顔に繋がるのだと感じました。